

齋藤茂樹の 北関東巡り



令和5年(2023) 2月1日

10

16代150年にわたって続いた鎌倉幕府※を滅亡させた新田義貞は、「上毛かるた」にも採り上げられる有名な武将です。地元では、とくに歴史に興味がなくとも、新田義貞や関連する土地のことはよく知られています。

鎌倉幕府を滅亡させた新田義貞

新田義貞は、源義家(八幡太郎義家)の子義国を祖とする源氏です。上野国新田荘(現在の群馬県太田市)を開発した新田氏の祖・義重から八代目に当たります。

日本最初の武家政権を樹立した源頼朝が鎌倉幕府を開いて以来、北条守時までの16代150年にわたって執権政治を行いましたが、元弘3年(1333)5月22日、倒幕の旗頭だった新田義貞軍に打ち破られて鎌倉幕府は滅びました。



上毛かるた：新田義貞がまさに刀を稲村ヶ崎に投げ入れんとする姿

れ
新田義貞
歴史に名高い
なだか
にたよしさだ

「上毛かるた」の新田義貞の絵札、新田荘歴史資料館の像、討幕の拳兵地生品神社の像、すべて新田義貞が鎌倉攻めの際、稲村ヶ崎に刀を投げて潮を引かせて攻め込んだという様子を表しています。新田義貞の名場面というやはりこのシーンになります。

※ 鎌倉幕府： 創設年は、治承4年(1180)、治承7年(1183)、文治元年(1185)、建久元年(1190)、建久3年(1192)等諸説あり。解散年は元弘3年(1333)。

新田義貞像は他にも、東武伊勢崎線太田駅前(群馬県太田市)、京王線とJR南武線が乗り入れている分倍河原駅前(分倍河原古戦場地：東京都府中市)にあるようですのでいつか観に行こうと思います。

私は実家の伊勢崎と宇都宮を行き来する際、今は北関東自動車道を使いますがこれができる前は栃木県道・群馬県道39号線(足利伊勢崎線)を使っていて生品神社のすぐ近くを通っていました。

新田義貞が拳兵した生品神社

生品神社は、群馬県太田市のとても静かな場所にあります。境内は国の史跡「新田荘遺跡」の一部として指定されています。

今から約700年前の元弘3年(1333)5月22日、この神社に鎌倉幕府を倒さんと立ち上がった兵が集まっていました。それを率いたのが地元の豪族である新田義貞でした。



生品神社

当時政権を握っていた北条氏は完全に信頼を失っており、後醍醐天皇は、天皇中心の政治を再び創ろうと武士たちに倒幕の命令を下します。その時義貞は、幕府と天皇のどちらを選ぶかとても悩んだそうなのですが、最終的には天皇の命を受けて鎌倉への出陣を決意したのです。

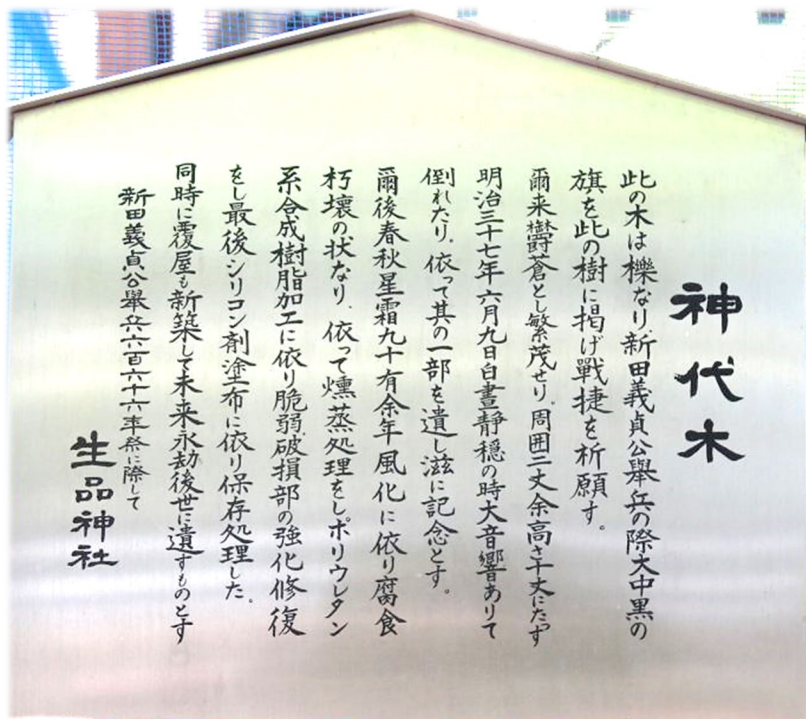
生品神社所蔵の古文書(元禄12年(1699))には、「じんだいぼく神代木と記される大樹に新田義貞が元弘3年5月8日当社前にて拳兵の際、大中黒の新田旗をこのくぬぎ櫨に掲げ、戦勝を祈願した」と記載されていることから、義貞が旗を掲げた木と伝えられています。

木はかつて幹の太さが6mを越し、高さは30m以上に達したということですが、明治37年(1904)、大音響とともに倒れてしまったということで、この幹の一部だけが本殿



神代木(生品神社)

の前に遺されています。倒れてから100年近くたち表面が風化により朽ちてきたため、平成11年(1999)に表面に樹脂加工による保存処理を行い、後世に伝え残せるようにしてあります。



生品神社で義貞が挙兵した際の兵の数はわずか150騎でした。しかしその後、鎌倉へ南下する道中で次々と味方が加わっていき、鎌倉へ到着した時には5万の兵の勢力になっていたと言われています。



新田義貞の墓

新田義貞は福井市藤島での戦いで38歳で戦死し、墓所は福井県坂井市の称念寺しょうねんじや茨城県龍ケ崎市の金竜寺きんりゅうじ（金山城主が転封になったため）にあるとのことですが、以前京都の嵯峨野を巡って

いた時、滝口寺（^{たきぐちでら} 祇王寺の隣）で新田義貞の首塚を見ました。

群馬県太田市の^{かなやまじょう}金山城址の本丸跡には新田神社があり、新田義貞が祀られています。

建武3年(1336)に佐野氏が攻め落とした新田城がここにあつて、新田城は新田義貞が建てたと言う説がありましたが、現在のところその時代の遺構は見つかっていないため、伝説のままです。

応仁3年(1469)に新田一族の岩松氏が埼玉の本庄からこの太田金山に築城したことはわかっており岩松氏が築城主とすると先祖の新田義貞が祀られていることは納得できます。



新田義貞首塚(滝口寺)



金山城の新田神社



新田義貞像(新田荘歴史資料館)

〔編集者・加藤良一よりひとこと〕

2頁に「新田義貞像は他にも、…、京王線とJR南武線が乗り入れている分倍河原駅前ぶばいがわらにある」と書かれていましたが、私は小学生時代に2年間ほど府中市に住んでいたことがあり、最寄り駅が分倍河原駅ぶばいがわらでした。しかし、その付近が「古戦場地」だったとはまったく知りませんでした。何も知らなかった小学生は、友だちと連れ立って駅前を通り抜け、多摩川の河原によく遊びに行ったものです。

〔バックナンバー〕

- 齋藤茂樹の北関東巡り 1
- 齋藤茂樹の北関東巡り 2
- 齋藤茂樹の北関東巡り 3
- 齋藤茂樹の北関東巡り 4
- 齋藤茂樹の北関東巡り 5

- 齋藤茂樹の北関東巡り 6
- 齋藤茂樹の北関東巡り 7
- 齋藤茂樹の北関東巡り 8
- 齋藤茂樹の北関東巡り 9

Back

「齋藤茂樹の北関東巡り」TOPへ戻る

Home

「ホームページ」表紙へ戻る